

第151回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問 仕訳問題

1. 掛販売した商品を返品した場合には、売り上げを取り消し、売掛金を減少させる。

(借)	売	上	350,000	(貸)	売	掛	金	350,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

2. 販売用の中古車の購入は、商品に該当するため、仕入勘定で処理する。

(借)	仕	入	850,000	(貸)	買	掛	金	850,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

3. 固定資産の購入に際して仲介手数料を支払っている場合には、当該仲介手数料は固定資産の取得原価に含めて処理する。

(借)	建	物	1,030,000	(貸)	普	通	預	金	4,120,000
(〃)	土	地	3,090,000						

※ 建物： $¥1,000,000 + ¥1,000,000 \times 3\% = ¥1,030,000$

土地： $¥3,000,000 + ¥3,000,000 \times 3\% = ¥3,090,000$

普通預金： $¥1,030,000 + ¥3,090,000 = ¥4,120,000$

4. 電車代およびタクシー代は旅費交通費勘定で処理し、書籍代については消耗品費勘定で処理する指示があるため、指示に従う。

(借)	旅	費	交	通	費	11,250	(貸)	未	払	金	16,250
(〃)	消	耗	品	費		5,000					

※ 旅費交通費： $¥6,750$  (電車代) +  $¥4,500$  (タクシー代) =  $¥11,250$

未払金： $¥11,250 + ¥5,000 = 16,250$

5. 借入金利息の計算をする場合に、未返済額に対して利息は発生するため、今月の返済額ではなく未返済額に利率を乗じて利息の計算を行うことに注意する。

(借)	借	入	金	200,000	(貸)	普	通	預	金	203,000
(〃)	支	払	利	息						3,000

※ 支払利息： $¥1,000,000$  (未返済の元本)  $\times 3.65\% \times 30日 / 365日 = ¥3,000$

普通預金： $¥200,000 + ¥3,000 = ¥203,000$

**第2問 補助簿の推定**

各勘定の推定は下記のとおりである。なお、推定箇所はゴシックにしている。

総勘定元帳			
買掛金			
10/9	仕入	9,000	
15	現金	331,000	10/1 前月繰越
22	仕入	11,000	330,000
25	普通預金	925,000	8 仕入
31	次月繰越	293,000	418,000
		1,569,000	21 仕入
			821,000
			1,569,000

買掛金元帳			
北海道商店			
10/22	返品	11,000	
25	普通預金払い	925,000	10/1 前月繰越
31	次月繰越	95,000	210,000
		1,031,000	21 仕入れ
			821,000
			1,031,000

沖縄商店			
10/9	返品	9,000	
15	現金払い	331,000	10/1 前月繰越
31	次月繰越	198,000	120,000
		538,000	8 仕入れ
			418,000
			538,000

**第3問 残高試算表の作成**

合計試算表を作成する問題である。合計試算表は1月31日の金額に2月中の取引を合算して作成する。以下2月中の仕訳を示す。

1日	(借) 売掛金	350,000	(貸) 売上	350,000
2日	(借) 仕入	260,000	(貸) 買掛金	260,000
6日	(借) 売掛金	220,000	(貸) 売上	220,000
7日	(借) 支払手数料	30,000	(貸) 普通預金	45,000
	(〃) 広告宣伝費	15,000		
9日	(借) 所得税預り金	30,000	(貸) 当座預金	30,000
13日	(借) 売掛金	450,000	(貸) 売上	450,000
〃	(借) 支払手数料	400	(貸) 現金	400
14日	(借) 現金	250,000	(貸) 売上	250,000
〃	(借) 現金	2,000	(貸) 現金過不足	2,000
15日	(借) 普通預金	301,600	(貸) 現金	301,600
16日	(借) 仕入	250,000	(貸) 当座預金	250,000
19日	(借) 普通預金	50	(貸) 受取利息	50
20日	(借) 給料	300,000	(貸) 所得税預り金	35,000
			(〃) 従業員貸付金	50,000
			(〃) 当座預金	215,000

〃	(借) 当座預金	925,000	(貸) 売掛金	925,000
〃	(借) 買掛金	815,000	(貸) 当座預金	815,000
26日	(借) 定期預金	1,000,000	(貸) 当座預金	1,000,000
27日	(借) 支払家賃	120,000	(貸) 当座預金	120,000
28日	(借) 水道光熱費	6,000	(貸) 当座預金	14,000
	(〃) 通信費	8,000		

#### 第4問 商品有高帳

(1) 商品有高帳の作成

商品有高帳  
X商品

平成 30年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	100	300	30,000				100	300	30,000
	5 売上				60	300	18,000	40	300	12,000
	8 売上戻り	10	300	3,000				50	300	15,000
	12 仕入	150	308	46,200				200	306	61,200
	22 売上				180	306	55,080	20	306	6,120
	30 次月繰越				20	306	6,120			
		260	—	79,200	260	—	79,200			

(2) 移動平均法にもとづいた場合の、6月のX商品の売上原価

$$¥18,000 (5日売上) - ¥3,000 (8日売上戻り) + ¥55,080 (22日売上) = ¥70,080$$

(3) 先入先出法にもとづいた場合の、X商品の次月繰越高

期末商品棚卸数量が20個であることは、(1)の商品有高帳を作成すれば判明していることである。そのため、月末直前の20個の仕入単価が判明すれば次月繰越高を解答できることになる。

$$20個 \times ¥308 (12日仕入分) = ¥6,160$$

#### 第5問 財務諸表の作成

決算整理仕訳は以下のとおりである。

1. 普通預金口座に預け入れ

(借) 普通預金	50,000	(貸) 現金	50,000
----------	--------	--------	--------

◆ 現金：¥185,000 (試算表現金) - ¥50,000 = ¥135,000

◆ 普通預金：¥928,000 (試算表普通預金) + ¥50,000 = ¥978,000

2. 現金過不足の判明

期中において現金過不足勘定で処理していたものが決算において判明した場合には、適切な勘定科目に振替え、なお、過不足額がある場合には雑損または雑益として処理する。

(借) 通 信 費	2,000	(貸) 現 金 過 不 足	3,000
(〃) 雑 損	1,000		

※ 雑損： $¥3,000$  (試算表現金過不足)  $- ¥2,000$  (判明分)  $= ¥1,000$

◆ 通信費： $¥30,000$  (試算表通信費)  $+ ¥2,000 = ¥32,000$

3. 仮受金の判明

(借) 仮 受 金	68,000	(貸) 売 掛 金	68,000
-----------	--------	-----------	--------

◆ 売掛金： $¥568,000$  (試算表売掛金)  $- ¥68,000 = ¥500,000$

4. 車両運搬具の売却の訂正仕訳

(1) 誤っている仕訳

(借) 現 金	10,000	(貸) 車 両 運 搬 具	800,000
(〃) 固 定 資 産 売 却 損	790,000		

(2) 本来の正しい処理

(借) 現 金	10,000	(貸) 車 両 運 搬 具	800,000
(〃) 車両運搬具減価償却累計額	700,000		
(〃) 固 定 資 産 売 却 損	90,000		

※ 車両運搬具減価償却累計額は決算整理前残高試算表より

(3) 訂正仕訳 (1) → (2)

車両運搬具減価償却累計額で固定資産売却損を減少させることにより、本来の正しい仕訳に修正することができる。

(借) 車両運搬具減価償却累計額	700,000	(貸) 固 定 資 産 売 却 損	700,000
------------------	---------	-------------------	---------

◆ 固定資産売却損： $¥790,000$  (試算表固定資産売却損)  $- ¥700,000 = ¥90,000$

5. 貸倒引当金の設定

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	6,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	6,000
-------------------	-------	---------------	-------

※ 貸倒引当金繰入： $¥500,000$  (修正後売掛金)  $\times 2\% - ¥4,000$  (試算表貸倒引当金)  $= ¥6,000$

◆ 貸倒引当金： $¥4,000$  (試算表貸倒引当金)  $+ ¥6,000 = ¥10,000$

6. 売上原価の算定

解答の便宜上売上原価勘定を用いて売上原価の算定を行う。

(借) 売 上 原 価	198,000	(貸) 繰 越 商 品	198,000
(借) 売 上 原 価	2,035,000	(貸) 仕 入	2,035,000
(借) 繰 越 商 品	235,000	(貸) 売 上 原 価	235,000

◆ 売上原価： $¥198,000 + ¥2,035,000 - ¥235,000 = ¥1,998,000$

7. 減価償却

(借) 減 価 償 却 費	150,000	(貸) 建物減価償却累計額	100,000
		(〃) 備品減価償却累計額	50,000

※ 建物減価償却累計額： $\yen 3,000,000$ （試算表建物） $\div 30$ 年 =  $\yen 100,000$

備品減価償却累計額： $\yen 600,000$ （試算表備品） $\div 5$ 年

$\times 5$ か月（8月～12月）/12か月 =  $\yen 50,000$

◆ 建物減価償却累計額： $\yen 1,200,000$ （試算表建物減価償却累計額） $+$   $\yen 100,000$  =  $\yen 1,300,000$

8. 保険料の前払い

解答の便宜上前払費用で処理する。

(借) 前 払 費 用	12,000	(貸) 保 險 料	12,000
-------------	--------	-----------	--------

◆ 保険料： $\yen 48,000$ （試算表保険料） $- \yen 12,000$  =  $\yen 36,000$

9. 受取手数料の前受け

解答の便宜上前受収益で処理する。

(借) 受 取 手 数 料	33,000	(貸) 前 受 収 益	33,000
---------------	--------	-------------	--------

※  $\yen 36,000$ （試算表受取手数料） $\times 11$ か月（翌年1月～11月）/12か月 =  $\yen 33,000$

◆ 受取手数料： $\yen 36,000$ （受取手数料） $- \yen 33,000$  =  $\yen 3,000$